

令和4年度第3回 山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会議事録（要旨）

日時

令和4年10月17日（月） 午後2時00分～午後3時30分

場所

山県市役所3階 大会議室

出席者

委員	早川 三根夫	学識経験者
	山崎 通	市議会議員
	高屋 重義	市自治会連合会が推薦する者
	梅田 修一	市自治会連合会が推薦する者
	神原 義典	市PTA連合会が推薦する者
	上野 泰英	市PTA連合会が推薦する者
	岩田 陽歩	市立保育園長会が推薦する者
	佐藤 千秋	市立保育園長会が推薦する者
	奥田 真也	市立保育園長会が推薦する者
	高橋 広美	市立小中学校長会が推薦する者
	石樽 千恵	市立小中学校長会が推薦する者
	伊藤 泰介	市立小中学校長会が推薦する者
事務局	教育長	服部 和也
	学校教育課長	森川 勝介
	学校教育課課長補佐	渡瀬 和則

欠席者

委員	山口 一美	市自治会連合会が推薦する者
	松井 元成	市PTA連合会が推薦する者

日程

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 前回議事録の確認
- 4 議事
 - (1) シミュレーションのまとめについて
 - (2) 小規模校の実践状況について
 - (3) これまでの検討内容の整理について
 - (4) 答申（案）について
- 5 次回の予定

日時 令和4年11月21日（月） 午後2時～午後3時30分

場所 山県市役所3階 大会議室

6 閉会

会議の概要

別添のとおり

1 開会

午後2時00分開会

2 委員長挨拶

会を重ねるごとに山県の良さと課題が明らかになってきた。いよいよ答申に向けて最終段階に入る。事務局から提出された資料をもとに、皆さんから意見をいただき、まとめた。

3 前回議事録の確認

事務局が説明。(略)

4 議事

(1) シミュレーションのまとめについて

○委員長 前回の会議で、統廃合以外の方策についてシミュレーションがいくつか提出された。これをまとめた資料が提出されているので、事務局から説明願う。

○事務局 説明(略)

(2) 小規模校の実践状況について

○委員長 いくつかのシミュレーションのうち、⑤山県方式小中一貫型が最も効果があるというまとめだった。小規模校では既に実践している取組もあると思うので、各校長先生から説明願う。

○各校長 説明(略)

○委員長 これについて質問や意見があればうかがいたい。

○委員 三校ともイエナプラン的な取組がされている。縦割グループは、2年生や3年生が1年生の世話をする機会があるので、今後も継続されればいいと思う。

○委員 いわ桜小児童がバスに乗って美山小に移動することは、社会経験にもなる。美山小児童にも経験させてあげたい。B T線の利用者が増えているようだが、9人の児童全員が乗れなかったり途中で一般の方が乗れなかったりしたことはないのか。

○委員 B T線は予約制ではないのでそういう状況も想定しているが、今のところ一度もない。

○委員長 学校間の連携は、校長の心がひとつにならないと簡単にはできないが、固定された人間関係の中で、少しでも多くの子どもとふれあう工夫がされていることがよくわかった。同じ校区の小中学校のアンケート項目を合わせることもいいことで、すばらしい実践が始まっていると感じた。

(3) これまでの検討内容の整理について

(4) 答申(案)について 山県市の新しい学校の姿について

○委員長 小規模校でこうした工夫がなされているということを知った上で、いよいよ答申をまとめるための作業に入る。昨年度からの検討内容をまとめた資料が提出されているので、事務局から説明願う。

○事務局 説明（略）

○委員長 たたき台なので、皆さんからいただいた意見で修正する。全体的なことや文言のこと、どんな観点でもいいので、ひとりずつ発言をいただく。

○委員 伊自良中学校1年生26人は、単独部活動よりも合同部活動に所属している生徒のほうが多い。また、今年度、東海大会に出場した男子バレーボール部と陸上部は、どちらも合同部活動。単独ではなかなか開設できなかった、自分の好きな部活動ができるということが、子どもたちの生きがいになっていると感じている。
タブレットの使用の成果は出てきているが、仲間とのかかわりの面で使うことが、今後の課題だと感じている。

学習においては、教科担任による授業の良さを、小学校の英語だけでなく他の教科にも広げていきたいと思っている。

○委員 資料の現状分析から、小規模校で取り組んできていることの価値を改めて実感し、自分の学校だけではなく全体的に考えて、校長同士が連携し教育過程を工夫しなければいけないと感じた。

答申（案）の2ページ、上から4行目の「中規模校の仲間とのコミュニケーション」の部分は、梅原小、大桑小、桜尾小の3校が交流している例もあるので、「中規模校」でなく「近隣学校」としていただけたらいいと思う。

○委員 学校連携についての話し合いは、各校に事情があり相当な時間がかかる。小中一貫校であれば、子どもたちの成長につながることをいろいろと試すことができるのではないかと思った。

山県方式小中一貫型を進めた場合、学校に残った低学年の子どもたちで、どのように活動していくのか、どのように教員を確保するかなど、課題も出てくる。低学年は、高学年ほどオンライン授業の理解が深まらないので、バスで移動して顔と顔を合わせる交流が良い。交流授業の方法も課題である。

○委員 いわ桜小の運動会は、先生方が児童一人一人を大切にしていることがよくわかり、地域の皆さんも一人一人の名前を呼びながら応援していて、とてもいい運動会だと感動した。

答申（案）の2ページ、上から9行目の「学校とふるさと」という言葉を、強調してほしい。

2ページ、具体的方策の②「「小中一貫校」を検討する。」については、「山県市独自の特徴ある小中一貫校を目指す。」というような感じにしてほしい。

具体的方策の③「ハイブリット連携校」について、イメージしにくいので説明してほしい。

○教育長 実際に顔を合わせる従来の授業とオンライン授業の両方を実施する教育方法のことを総称して「ハイブリッド」と呼んでいる。わかりにくいようであれば、説明を加える。

○委員 保育園が同じでも小学校で分かれてしまうと、中学校でまたいっしょになっても仲良くなれないこともある。統合が難しければ、小学校の合同授業に積極的に取り組んでほしい。桜尾小の取組は、学年問わずふれあえる機会があるのでいいと思った。

先日、伊自良コミュニティセンターで、小学4年生の女の子が私の子どもと遊んでくれ、「来年、小学校で会えるね」と言ってくれた。小規模校もいいなと思った。

○委員 何が正解なのかまだわからないが、先ほど、小規模校での取組を聞いて、これからは地域一丸となり、子どもの成長をしっかりと保障する仕組みを一番に考えていけたらいいと思う。

○委員 私が中学生の時は、部活動の選択肢が三つしかなかった。今はかなり選択肢が増えて自分のやりたい部活動が選べ、他の学校の生徒との交流もできるようになったので、いいことだと思った。一年生がいない部活動もあるようなので、この先の施設の維持について考慮すべき点だと思う。2校だけの合同部活動もあると聞くので、平等ではない気がする。人数が集まれば競争心が生まれ、切磋琢磨してレベルも上がると思う。

山県方式になるのか統廃合になるのかわからないが、伝統文化や地域交流については、一度、絶えてしまうと、元に戻すのはとても大変なので、なくすのではなく、何かしらの形で継続してほしい。

○委員 検討内容の整理と答申（案）の内容は、概ねこれでいいと思う。具体的方策として三つの案が出されているが、中学校区ごとにそれぞれに合った方法なので、いいと思った。

部活動の地域移行には、保護者の負担の軽減、先生方の負担の軽減、責任の明確化など、いろいろな課題がある。この適正化で解決できるものがあれば、解決してほしい。

先月、子どもが学校を休んだ時、リモートで授業を受けることができてありがたかったが、リモートに慣れてない教科担任の先生もいた。すべての先生がしっかりと使えるように指導してほしい。

全国各地に、イエナプランや先進事例があるので、視察や勉強会をしてはどうか。

○委員 私は小規模や複式学級の解消を目的に早く統合したほうがいいと話してきたが、今日、いわ桜小の合同授業、桜尾小の全学年のグループ活動、伊自良中体育祭への小学校高学年の参加といった事例を聞いて、小規模校で先生がいろいろ工夫して活動していると、大変感心した。

答申（案）にあるように、多くの人数の中で切磋琢磨し、競争心や協調性、社会性などを学んでいくのがいいことだと思っているが、山県方式なら実現できる

ので、これを進めてほしい。

○委員 私も地域の運動会を見る機会があり、やはり地域の運動会はいいと思った。
基本的には答申（案）のとおりでいいと思う。

現在の学校は非常に古い校舎が多いが、致命的に古い物はないのか。文部科学省から耐用年数について通知はないのか。

○教育長 基本的には耐震工事をして使えるようにしているが、ほとんどの校舎が古くなっている。

○委員長 ベビーブームの時に大量に学校が建設されたが、一斉に建て替えなければならぬ時期が来ている。国は、校舎の長寿命化を図る事を推進している。

○委員 山県方式の方向性でいいと思っている。

小規模校には賛成ではなく、少なくとも中規模校ぐらいに統合するというのが基本的な私の考え方。複式校が増えるということは、小規模でなくて零細規模になるので大変だが、いわ桜小のようなかたちで子どもたちが喜ぶのであれば、これは素晴らしいことだとも思う。金曜日の午後だけでなくもう少し増やせば、もっと違ったかたちができるのではないかと期待するので、検討してほしい。

地域には歴史と文化があるので、その歴史と文化を守ろうとすると、統合するということは極めて困難になる。反対する人の声は大きくて、賛成する人の声は聞こえないというのが現状。思うように進まないかもしれないが、こうした機会を通じて、委員長のもとでいい方向を示していただけると大変ありがたい。

○委員長 今の、金曜日の午後だけでなく拡大ができないかという意見に対して、教育長、お答え願う。

○教育長 今後、増やしていけばいいと思う。今描いているのは、ほとんどの日は美山小や美山中で授業を受け、週に一度は全校児童がいわ桜小にいて、地域の人たちも来て授業が行われるというつくり。実際は、これから校長先生方と協議しながら、やれることをまずやっていく。

○委員 今はコロナ禍で、保育園と小学校の交流がない。保育園年長の保護者の不安を解消するため、連携を考えてほしい。

○教育長 連携するよう努力する。

○委員長 適正規模を考えると、小規模でいいから今のまま残すべきという意見と、統合して切磋琢磨できる環境を作るべきだという意見が、必ず対立する。残すべきという意見のほうが非常に大きく出て、なかなかうまくいかない状況に陥り、地域住民同士が気まずくなるというのが今までの統合の問題点だった。

そもそも適正規模という考え方は、行政にとっての適切規模であって、子どもにとっての適正規模は、ある子にとっては先生と一対一の環境がいい、ある子にとってはたくさんの子どもがいる環境がいいと、ひとりずつ違う。少人数の良さや切磋琢磨できる一定規模の環境と、両方のいいところを実現できる方策がある

のではないかと論議し、行政にとっての適正規模ではなく子ども一人一人にとっての適正規模を実現できる学校、教育行政にしようということを、皆さんで確認できた。

山口市は、その規模、地域の支え、進んだICT機器、スクールバスといった、それを実現できる条件がそろっている。しかし、一方、法律で教員数は学級数で配置されるとなっているので、教員数をできるだけ減らすことなく、法律の範囲内で多様な学びができるようにしようとすると、技術的な問題が出てくる。

我々に課せられたのは、「学校の適正な規模等のあり方について」「21世紀をたくましく生きる子どもの教育の実現について」の2項目。決められた枠に子どもを合わせるという今までの教育ではなく、山口市の大人が子どもに合わせて、最高のものを作り上げていくために努力する学校のあり方を追求していこうと、答申の骨子として共通理解された。これは全国的にもアピールできるものになるが、教育長のリーダーシップや校長のマネジメント能力、地域の協力や支えがあって初めて実現できる。

昨年度から5回の会議で検討を重ねてきた。毎回、活発な意見があり、新しい方向が見えてきた。次回、精度が上がった答申（案）が出されるので、ご意見をいただき委員会としての答申を決めたい。

6 次回の委員会予定

(略)

7 閉会

午後3時30分閉会